

2020（令和2）年度事業並びに決算の概要

本互助組合は、本県における教育文化の発展と組合員の福利厚生の上昇を図るため、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づき、各種事業の自主的・自律的な運営に努めているところです。

本県においても、「働き方改革」により教職員の業務負担軽減が求められる中において、一人ひとりの子どもに向き合いながら今日的課題に対応していく教職員の心身の健康と生活を様々な形でサポートする本互助組合の果たすべき役割はますます重要となっています。

一方、新型コロナウイルス感染症再拡大への懸念が高まっており、目先の景気に失速リスクが出てきたこと、金融政策においては、今後とも低金利政策が継続されるとの予想が大半を占めていることなど、資金の運用環境はより一層厳しい状況にあります。

2020（令和2）年度決算については、経常収益合計が994,361,366円、経常費用合計が1,033,620,346円、評価損益合計が△43,170,954円、当期における一般正味財産については、82,627,455円の減となっており、当年度の一般正味財産期末残高は2,435,900,515円となりました。

今後も、超低金利による利息収入の減収は避けられないことから、収支の均衡を図りながら健全な財政運営に努め、引き続き各種事業の見直しと充実に努めてまいります。

【事業執行の概要】

- 1 公益文化事業については、鹿児島県教職員共助会と共催してスクールコンサートを始良・伊佐地区（加音ホール）、鹿児島地区（喜入町総合体育館）、北薩地区（祁答院中学校体育館）で地域の小中学生を対象に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で全公演中止となりました。なお、公演中止分については、2021（令和3）年度開催の予定です。
- 2 情報セキュリティポリシーを遵守しながら、各種事業等の積極的な情報発信の新たな広報手段としてLINE公式アカウントサービスを開始し、ホームページとの連携により組合員の利便性向上に努めました。
- 3 健全な財政運営を確保するため、経済等の動向を注視しつつ幅広く情報収集を行うとともに、資産構成と運用方法を検討しながら、より安全かつ効率的な資金運用に努めました。